



説教要旨 「ヨナのしるし」

ルカによる福音書 11 章 29～32 節

ルカによる福音書 11 章の 14 節以下の場面で、口をきけなくする悪霊を追い出しているイエス様のことを見た群衆の中に、「イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。」(16 節) と言うことが記されていました。イエス様のことを疑って、目に見える証拠を見せてみろというのです。

イエス様はそのような人々に、「ヨナのしるしのほかにはしるしは与えられない」(29 節) と言われました。旧約聖書のヨナ書には預言者ヨナが、当時イスラエルを苦しめていたアッシリア帝国の都であるニネベに遣わされ、ヨナの預言によってニネベは滅びを免れたことが描かれています。神さまは、ご自分が創造された人々が、一人でも滅びることを望んでられないのです。どのような人でも、その人を造られた神さまは、どこまでも愛しておられる。その神の限りのない愛が、ヨナを通して示されたのです。この、ヨナのしるしこそが、最大のしるしであるというのです。

また、イエス様は「南の国の女王」についても言及されています。列王記上の 10 章にあるエピソードで、知恵者として名高いソロモン王のところへシバ王国の女王がやってきて、難しい問題を出してソロモンを試そうとするのです。けれども、すべての問題に明解に答えるソロモンの知恵に感服し、イスラエルの神さまをほめたたえて帰って行ったという内容です。しかしイエス様は、このシバの女王がソロモンにまさっていると言い、さらにニネベの人々がヨナにまさっているとまで言うのです。それは、「このイエスと言う男が、本当に神から遣わされたものであるかどうか判断してやろう」。と思い上がる人々に向けて、「かつてあなた方が罪人と蔑んだ人々に、あなたがたは裁かれることになる」と皮肉たっぷりに告げているのです。

私たちは救われて当たり前、神様に愛されて当然の存在ではありません。神様に見捨てられ、うち捨てられて当然の存在です。救われるはずのないこの私たちは、ただ主の憐れみによって、主が苦しまれることによって救いに入れられたのです。



(2019・6・16 説教者：稲垣真実)